

11月の
闘闘西

権力構造の矛盾突く

清流劇場【メアリー・ステュアート】
匿名劇壇【ことの葉こよみ】
空晴【悪い癖】
iaku【遠くの花火】
【ハイツブリが飛ぶのを】

九鬼葉子

ドイツ演劇の上演で幅広い観客の支持を得る清流劇場が、シラーの『メアリー・ステュアート』を上演（10月21日、伊丹市のアイホールで所見、田中孝弥構成・演出）。2時間10分に構成、緊迫した会話劇を一気に展開した。

スコットランド女王メアリー（竹田朋子）が、イングランドで幽閉される。イングランド女王エリザベス（林英世）よりも正統な王位請求権を持つメアリーは、エリザベスの権力の安泰を願う議会により、死刑が宣告される。白い2段の舞台を組み、権力構造を象徴。政治と宗教の対立を外枠に、個人の葛藤が人間臭く描かれた。

身体的に囚われたメアリー。だが、エリザベスは精神的自由を奪われている。自らの出自への劣等感と、メアリーのカリスマ性への畏怖。家臣と民衆の支持の上に成り立つ、危うい権力への不安。林英世は、彼女の威光を利する家の男達の一言一言に、敏感に反応する女王の重圧を繊細に造形、気位と弱さ、苦悩を熱演した。

メアリーの処刑理由は無実の罪だが、彼女はそれをかつて夫の殺害に関わった罪への神の处罚と受け止め、贖罪を果たし、心は解放されて天上に旅立つ。一方エリザベスは義務に囚われ、孤独

総合演劇雑誌

アトロ

1
2018

瀬戸山美咲と野木萌葱

谷岡健彦／林あまり／河野 孝

批評的エッセイ 田之倉稔

○連載 共創する空間へ⑩ 西堂行人
アートの公共学④ 高橋宏幸

【書評】「白髪のうた」「新劇製作」斎藤偕子
今月選んだベストスリー 282 渡辺 保

◆戯曲◆

白鳥銀塩館
響リュウ

浮かれるペリケン
坂口瑞穂

